

喜怒哀楽



JUNE-JULY

6-7

Vol.86

「喜怒哀楽」は、文芸を楽しむ方々の活力の源を目指し(株)ミューズ・コーポレーション喜怒哀楽書房が隔月発行している情報誌です。

詠み人応援マガジン・詩歌俳壇ニュース

CONTENTS

笑顔礼讃西東

游の会 高田正子 (神奈川県・川崎市) 2~3

松田雄姿 (千葉県・柏市) 4

詠み人スクランブル

《あなたが取り組んでいる日常の「エコ活動」は何ですか?》10~11

新潟ぶらり／新潟市會津八一記念館 12

詠み人の「リレーエッセイ」 歌人 盛田志保子 16

「なつかしい遊び・玩具」シリーズの2回目。ビー玉は古代エジプトやローマの遺跡からも見つかっており、古い歴史があるようです。「ビー玉当て」「目玉落とし」といった遊びのほか、透明なグラスに入れインテリアとして楽しむ方も多いですね。夏の光に、つやつやときらめいて。

（誰にでも慈悲深い心があり、維摩居士も屠殺む。
人々、個の大慈悲あり、維摩・屠劊の二心無きなり。処々、種の真趣味あり。金屋・茅簷も両地にあらざるなり。只だ是れ欲蔽く情を封じ、当面に錯過せば、咫尺を使得千里ならしむ。
（誰にでも慈悲深い心があり、維摩居士も屠殺む。）

「温古知新」も第40回を迎える事ができました！ これも読んでくださる皆様のおかげです。今回も「菜根譚」をお届けします。
学ぶ者、精神を收拾して、一路に併帰するを要す。如し徳を修め、意を事功名譽に留めれば、必ず実詣無し。書を読み、而も、興を吟咏風雅に寄すれば、定めて深心ならず。
（学問を志す者は、氣力を一点に集中しなければならぬ。もし道徳をおさめ、名譽に氣を取られるならば業績を残すことはできず、本を読み風流な遊びに心を奪われるならば、本物の学者にはなれない。）
名譽にとらわれたり、人に良く思われたいと思っただけではいけません、ということでしょうか。



人や死刑執行人も違いはない。また、立派な館だろうと、粗末なあばら屋だろうと、そこでの趣がある。誰でも、欲に溺れず人情に流されなようにしなければ、ほんの小さなズレが、時間とともに大きな違いになる。）
相手が誰で、どこでどんなことをしていても、こちらの心構え次第。

徳に進み、道を修むるには、個の木石念頭を要す。若し一たび欣羨あれば、すなわち欲境に趨く。世を済い邦を経むるには、段の雲水の趣味を要す。若し一たび貧着あれば、便ち危機に墮ん。

（人間性を磨いて人間的であろうとすれば、木や石のような無欲の存在であることが大切。また、世の中を救い国を治めようとするなら、行雲流水の趣が必要だが、少しでもそれに拘り執着してしまえば危険極まりなくなる。）

無欲で執着なくいることは大事ですが、目的がそのこと自体になつてしまつてはいけませんね。

何事にもこだわりすぎるのは危険なこと。目的を見定め、平静な心持で日々過ごしたいものです。41回目以降も、「温古知新」をよろしくお願いたします！
（古川久美子）

川崎游の会

講師 高田正子様

(神奈川県・川崎市)

5月14日、よみうりカルチャー川崎で開かれた高田正子さんの句会「游の会」にお邪魔しました。開催日が振替になったため欠席投句もありましたが、10年選手あり、新人さんあり、句会初参加者ありとバラエティに富んだメンバードです。

資料として先月の句会報(添削例付き)と来月の兼題用に「季語を学ぼう6月夏の嫌われ動物②」が配布される。毎回高田さんが作成するもので、②には蛇、蜥蜴、蝸牛、蛞蝓(なぐし)等にまつわる句を引きつつ、ユニークな私観も述べられている。今日は先月配布の「夏の嫌われ動物①」にあったごさぶり等を兼題に3句提出の5句選。選句後は、各人が選んだ句の感想を述べ高田さんの講評へと続く。

※○の句は高田さん選



▲「藍生」所属 高田正子さん
第29回俳人協会新人賞、第3回星野立子賞受賞 俳人協会幹事

ごさぶりが出たと息子の夜の電話

和子

・嫌いなごさぶりが出たことを、息子さんが母に報告して微笑ましい。

高田：言いたいことが全部揃って入っているが、焦点を絞ったほうがいい。息子からきたところがおもしろいのか、そのあわてぶりなのか、リアルタイムの電話であるところなのか。ここぞというところに焦点を当てられるといい。「息子より」と前書きにするのも一法。対処の仕方を教えた頃にはごさぶりはもういないだろうし、そういうところを拾ってもおもしろい句になる。

若葉風手のひらいつばい吸い込んで

小夜子

・手のひらいつばい、ととても気持ちのいい句。

高田：手のひらいつばいは、どのような意味にとった？

・こんな感じで(と、両手を広げる)。

高田：なるほど。皮膚感覚でもその風を吸いたいという感じね？ じゃあ手だけとは限らない。手のひらいつばいってどういうことかと思った。感覚的にはわかるしジャスチャーとしてはこうだが、言葉通りにとろうとするとよくわからない。両腕とか両手とすれば、抱え込む感じになる。

部屋住みの蠅取り蜘蛛はピョンピョンと

緑子

蠅取り蜘蛛は、蠅捕蜘蛛または蠅虎とした方がいい。一塊で捉えられる表記に。



▲鳥博士の一雄さん(左)と夕刊の隆運さん(右)

○夕刊の一面に死す油虫

隆運

・夕刊で油虫をバシッと捉えた。一面がいい。今なら舂添さんの顔とか？(笑)／朝刊だとつぶれすぎるから、夕刊ぐらいがちょうどいい。

高田：油虫は夕方から夜にかけて出てくるから、夕の字が効いている。一面はトップニュース、たかだか油虫の死が一面に載っちゃったみたいなおおげさな表現も楽しい。俳句は気真面目につくるのもいいし、美しいものを詠むのもいいが、滑稽味を追求していくのも重要。続けていくうちにそういう味もでてくる。

○長兵衛忠兵衛ききなして五月かな

一雄

・長兵衛、忠兵衛？ 何のことかわからなかった。

高田：何？と思った方もいるようですね。これは鳥の鳴き声の聞き做しで、長兵衛忠兵衛はメジロの鳴き声。有名などころではホトトギスのテッペンカケ

タカやコジユケイのチョットコイ等がある。メジロは夏の季語で、囀り、いわゆるラブコールが高まつてくるのが5月。さすが鳥に詳しい一雄さんの実感。

※聞き做し：野鳥のさえずりを人の言葉に置き換えて覚えやすくしたもので、鳥声の翻訳とも。

蚊柱にほのかな明かり掲示板 利明

・掲示版を照らすための灯り、それが蚊柱にうつっている。

高田：灯りが及んでいる状況はわかるが、説明されている感じ。蚊柱そのものが発光しているように詠んでみては？

蚊を打つて祖母内職の手をとめず

圭子

・蚊を見もせずに打つて、何事もなかったかのように淡々と仕事を続けるたかのような女性の姿を詠んでいる。

作者：幼少期、祖母に預けられていたが、母とは違うタイプの人。小さい金具をパンと切る単純な仕事だったが、網戸もない縁側でやっていた姿が印象に残っている。

高田：明治生まれのおばあさまですね。この一句をどうぞお供えしてください。

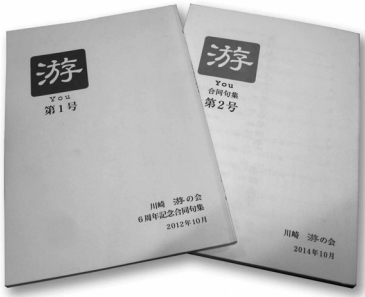
○一声のあと矢継ぎ早時鳥 善平

高田：ことさらに新しいことを言っているわけではないが、余計なことを何も言っていない。あつ、ホトトギスだ！という一声があつてそのあと矢継ぎ早に鳴いてくれたという喜びの句。

人の世の何ぞ映るや守宮の眼 隆運

・守宮の眼、という視点がおもしろい

笑顔礼讃西東



▲合同句集『遊』只今第3号準備中

と思つていただいたが、守宮じゃなくともいいのでは？と今は思っている(笑)。
高田：守宮はしつかり爬虫類の顔をしているから、とても人気のある生き物。「何ぞ映るや」は「何映るらむ」とした方が響きがきれい。何が映っているのかな、という現在推量。

幼児の掌ほどの蛾におびえ 修

高田：大きな蛾には、誰もがギョツとするから「おびえ」はいらない。「をさなごのたなごころほど火取虫」だけで十分。

父の字や形見の備忘録に紙魚 明博

作者：紙魚の句を読もうと実家に行ったら、紙魚じゃなくて父の字がでてきた。

高田：結構いろいろなことを言っているが、「紙魚」と名詞で止めたので饒舌感はなく切れ味がいい。

ジャンゲルジム登る子に来て夏の蝶 八ル子

・夏の蝶が登る子を応援してほほえましい。

高田：情景はわかるが説明になつている。AとBを取り合わせるとき因果関係をつけたくなるようだが、取り合わせは2つをそのまま置くだけでいい。そのあとに何が起きたかは読者に想像してもらえばいい。

大粒の雫に撓む蜘蛛の糸 由美

高田：高原で朝散歩に出たようなすがすがしさを感じるきれいな句。「大粒」で「撓む」みたいなところがあるから、「一粒の雫」でよい。

天井の蜘蛛追出せず夜になり 光

高田：散文っぽい。「天井の蜘蛛追ひ出せず」に夜に入りぬ」と完了形にすると、とうとうそのまま夜になっちゃった、という感じがでる。

○いつまでも手を振る母や麦の秋 春

・バスの最後尾に座っている作者、母は見えなくなるまで手を振っている。
高田：「麦の秋」としたところが、春さんのお手柄。一面が麦秋の色に染まった景色を思う。その中で豆粒みたいになつても手を振る母。麦の秋の色あいが懐かしい。

愛と夢語らぬままの蚯蚓かな 圭子

高田：「愛と夢語つてくれぬ蚯蚓かな」ということかな？

毛虫這う裏一面やつばきの葉 逸子

高田：気持ち悪いものは思い切り気持ち悪く詠む(笑)。「つばきの葉裏一面に毛虫這ふ」。

○手をつなぐ影の手つなぐ五月かな 八ル子

高田：手をつないだら影も手をつないだよ、という句。つなぐ、つなぐと畳みかけているのは嬉しいから。恋の句？ハル子さんの場合はお孫さんかな？
「手をつなぐ影も手つなぐ聖五月」と、「聖五月」はこういう時に使うといいかと思う。

夏近しくは煙草の店支度 柩子

・店主はランニングシャツを着た、でっぷりした坊主頭のおっちゃんイメージ。ぶつさらぼうだが、仕事はしつかりしている感じがする。

高田：「啞へ煙草」と漢字を使った方が、一瞬でとらえられていい。

亀の背にふいと一匹金の蠅 光

高田：光さんは、独特のオノマトペをお使いの方。コントラストがおもしろい。「金色の蠅水槽の亀の背に」でもいい。



▲当日は2名の方がお着物で歓待してくださいました！

囚われの硝子戸のうち朝の蠅 和子
・朝カーテンを開ける時に騒いでいる様子が思われる／「囚われの」がおもしろい。

高田：意味を優先させるなら「硝子戸のうち囚われの朝の蠅」となる。

逆走の一匹の蟻すべり台 明博

・情景が想像できる／よく見ていらっしやるなと思った。

高田：一瞬の「不思議な感じ」がいい。「すべり台一匹の蟻逆走す」や「一匹の蟻の逆走すべり台」と順番を入れ替えては？「逆走」といきなり入るより自然かも。

高田正子3句

父母を継がず八十八夜寒

大切なものを遠くに明易し

火の国の罅から生まれ瑠璃蜥蜴

★句会の最初から、くるくると一番動いていた方、それが高田さん。毎回用意されるしつかりしたそれでいて少し茶目つ気のある楽しい資料は、集めたらすごい歳時記になりそうな保存版もの。兼題でなければ詠まないような季語も、ちゃんと学べるよう配慮されている。ちやきちやきと、時にはバツサリと小気味よく会を進め、それでいて親しみの持てる仕事人とお見受けした。メンバーの方が揃って口にしたのは「俳句をつくるのは大変だけど、楽しいから毎回参加するんです」の評。旺盛なサービスピリットがなせる、楽しみながら学ぶ仕掛けが、この会には全方位的になされている。
(木戸敦子)

松田雄姿様

(千葉県・柏市)

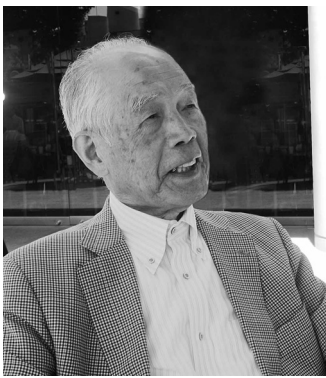
『大野林火言行私録』

今年2月、『大野林火言行私録』を上梓した松田雄姿さまにお話をお聞きしました。

待ち合わせの上野公園の一角。テラスに座る松田さんは何かしたためていた。きつと5月のこの清々しい空気を詠んでいたのだろう。師事した大野林火が「浜」に記した言葉の数々を、項目ごとに本書にまとめた、そのきつかけからお聞きした。

◎大野林火先生の「浜」に入ったきつかけは？

昭和40年代は安保闘争や学園紛争で殺伐とした時代。大塚警察署の警備責任者として、目白の田中角栄邸の警備の他、極左のゲバ取り締めや労働争議の警備、右翼対策などに当っていた。当時、自署の交番も爆破されるなど、寝る暇もない忙しさに署員の心も



▲80歳を越え、ますます忙しくなっているという松田さん

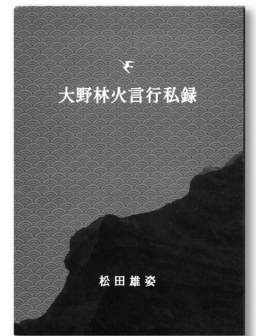
すさんでいた。人生これではいけないと思っていた時と俳句が軌を一にしていたかもしれない。それまで俳句は仕事の傍ら細々とやっていたが、本格的に始めるため「浜」同人の友人に添削をお願いした。ところがその句を添削のほかに関西の「浜」句会に出してくれ、その成績も良いので、林火先生の指導を受けた方がいいということでも「浜」に入った。初めて投句した句が「浜」の昭和50年2月号に掲載された。3、4句は載ると思っていたが、載ったのはたったの1句。俳句の手強さを知り、かえって闘志が湧き、次は2句だ！と努力した。

◎それからは熱心に投句を？

先輩の勧めで、初めて出た銀座の句会で先生の特選をいただき、もう1句が最高点に。今考えれば、ビギナーズラックでしかないが、その大ヒットで自信を得て可能な限り句会に出席した。特選は先生なりの営業だったのかも(笑)。先生の添削を受けるため、毎月30句以上送ったが、先生は句稿に◎△の印をつけ、◎の句は頂きましたと朱書し、コメントを付けて返送してくださった。当時、会員の半数近くが先生の添削を受けていた。昭和57年に先生が亡くなられ、指導が受けられず悩んでいた時、角川賞を受賞した小熊一人さんともう1人の先輩が「浜」創刊号から私が入会するまでの号を譲ってくれた。

◎その全ての号に目を通された？

せっかくだから目を通すと、各号に林火先生自ら、俳句をつくるうえで欠かさない大切なことを記しており、宝物だと思った。以後、暇を見



▲大野林火言行私録 第92巻 松田雄姿 百鳥叢書 読んでも俳句のエッセンスが散りばめられている

では読み返し、感銘したところをメモしていた。数年かかって読み終えたが、忙しくてメモはしまったままに。

◎膨大な量をまとめるのは大変だったのでは？

項目ごとにまとめるのに一番難儀したが、その項目の分け方がよかったと読んだ方は言ってくださる。先生は「作上の細かな技巧など、そこらの指導者に任せておけばいい」と常に俳句の基本的なもの、精神的なことを中心に書かれていた。例句や事例は、やや古くなった面もあるが、その言行は俳句の神髄を衝き、今なお学ぶべきことが多い。今回まとめてみて改めて感じている。

◎反応はいかがですか？

本書を作句のバイブルにしたい、もっと早くこの本に出会いたかった、すばらしいエッセンスが詰まっている…等々、おかげさまで好評を得ている。それは、一見異なっている事象や考え方も「人間性」「個性」「自己の追求」といった本質が先生の語録に通底しているからだと思う。80歳を越えてからまとめたいので、気力も低下し途中で投げ出したくもなかったが、出してよかったと思っている。

◎気力を振り絞った源は？

今の俳壇は、何か大事なものを忘れて

ている気がしてならなかった。松があったとして、枝先がどうこうとかいう唯事俳句や一部の人にしか分らない句を作り、分らない読み手が悪いという風潮。松には幹があり、枝振りがあり、そういう根幹を忘れていく。俳句は大衆文芸、やはりわかってもならない。人の心を打つ俳句をつくらなければ若い人も入ってこないし、俳句が衰退していくという危惧を抱いている。

◎そのために方々で指導を？

今は月に10回、3日に1回のペースで句会に出たり、指導に当たったりしている。また、「松籟」という誌上句会仲間の会報を出している。自分の句を作る暇がない(笑)。いい人が育つてくれればいいし、いい句が出るとうれしい。今82歳、あと何年生きるかわからないが、俳句で自分史を著せないかと思っている。生い立ちや故郷、両親や職業等を詠んだ句に解説をつけられれば、わかりやすい自分史になるのではないかと。今少し書いているが、文章がへたくそでくどい。もうお金も時間も無いから出せないかな(笑)。

★職業柄が一見こわもてで、おまけに肥後もつすの松田さんだが、語る言葉は豊富でよどみなく、笑顔が実にチャーミング。「夢中になっていることは？」の問いにも「実はないんですよ、毎日精一杯やっているだけ」と真顔で答える。たくさんの人を育てた師と同様、使命感を持ち、好きなことに一所懸命。すばらしい生き方をされている当人には、自分の姿はわからないものなのかもしれない。

(木戸敦子)



投稿作品

短歌

※ 誌面の都合上、300作品を超える投稿があった場合、掲載はお一人さま1作品、先着300名様までとさせていただきます。
 ※ 今回の投稿作品数は、254でした。
 ※ しめきり 2016年7月15日(金)まで
 ※ 作品は原稿どおりに掲載しております。

- 1 われよりも先に逝くのはしのびなく
 拝む夕陽に雲のかかりて
 坂元正憲(東京都)
- 2 父投稿戴いた菓子魚にしき僕たべちゃっ
 た叱られたハイ
 五十嵐陸博(新潟県)
- 3 伐採の規制いまだに解けぬ山深く包
 みて乳色の霧 桑原謙一(群馬県)
- 4 娘と孫がオーストラリアへ発つと言ふ
 旅程のとゞく花冷の朝
 高須孝(愛知県)
- 5 十年余我が家と思ひしホームにはデ
 カンシヨ節残しゆきたし
 今井忠一(埼玉県)
- 6 樺戸監キリスト如き荻医師の暗殺告
 げるニコライ日記
 早坂絃司(北海道)
- 7 平凡だ平凡だよと愚痴の日々生ゴミ
 の日に捨てて爽やか
 松田重信(埼玉県)
- 8 瀬戸内の渚に老女佇みて戦死の父を
 待ちいるという 寒川靖子(香川県)

- 9 かこの菜はいきいき過ぎき天と地をつ
 なく夕日をあまたあびおり
 北岡晃(兵庫県)
- 10 フクシマと呼ばれ疎まれ無辜民の塗
 炭の避難五年たちたり
 黒澤正行(福島県)
- 11 いっぱいに洗濯物を干し終りペランダ
 に立つ妻は健在
 北澤実夫(東京都)
- 12 老ふたりぶらりの旅の花吹雪あと幾
 たびの春に逢ふやと
 村山徳英(埼玉県)
- 13 真青なる空を彩る桜花憂さも忘れて
 眺めあかせる
 関原幸子(東京都)
- 14 「胸」の字の中に凶あり何故なるかそ
 のやわらかき美しきものに
 久本にい地(岡山県)
- 15 ゆうゆうと堀に舞いたつこいのぼり丸
 亀城の天主仰ぎ見る
 佐伯セツ子(香川県)
- 16 センチあるかなしかの小鳥来て草
 取る我にちつちつちと
 田中恵恵(新潟県)
- 17 打ち上げて老松の右二打目うつはや
 グリーンにと急ぎゆくなり
 土屋喜雄(山梨県)
- 18 桜散りつつし満開その次は雨のアジサ
 イ移ろふ夏へ
 濱崎祥子(鹿児島県)
- 19 熊本緑豊かな地を襲ふ地震去りて
 こそが大切
 濱田イサオ(福岡県)
- 20 文ひろげ生まれいずる日母からのメッ
 セージあり命名の由来
 合田浩子(茨城県)
- 21 春陽さす町内掃除無事終る皆と笑顔
 で心落着く 高橋登志子(新潟県)

川柳

- 22 四季のある日本に生きる幸せをかみ
 しめながら余生愉しむ
 岩崎令子(大阪府)
- 23 麦秋の畑のまわりでウオーキングひば
 りが鳴くも麦刈り開始
 新井賢(埼玉県)
- 24 ひとひらの花を捉えた蜘蛛のあみ初
 めて掛けし糸は乱れて
 島田實貴男(群馬県)
- 25 桜の木枝をみるみる包みおり空もか
 くれて寝そべりながむ
 大鳥居牧子(東京都)
- 26 風船の自由を憎むブーメラン
 木村洋一(新潟県)
- 27 絡まれてあげようきつと辛いんだ
 丸山芳夫(東京都)
- 28 喜怒哀楽中の二文字控え目に
 橋本世紀男(東京都)
- 29 入学式主役はボクと念を押し
 石原岳(群馬県)
- 30 父の日に自己満足の墓参り
 細川光子(栃木県)
- 31 ネクタイも野良着の似合う顔となり
 鈴木義雄(福島県)
- 32 人間が地球の気候を変えている
 守屋高雄(岩手県)
- 33 古希祝い妻と今後の夢語る
 久保寿雄(北海道)
- 34 就活し婚活通過終活へ
 関本守(新潟県)
- 35 風呂敷へ母の温もり持ち帰る
 小山恵美子(大阪府)
- 36 アベノミクスは素晴らしい四月馬鹿
 原崇雄(埼玉県)
- 37 ポップスに追われ演歌は逃北へ
 山口千鶴子(東京都)

- 38 TPP知らずに牛は肥育され
 森恒雄(愛知県)
- 39 申年は猿知恵つかいビックリポン
 和崎治人(山口県)
- 40 うっかりが続き疑う認知症
 藤沢健二(千葉県)
- 41 歩くのが嫌いな家族犬メタボ
 大橋絵代(千葉県)
- 42 初対面みな友達にする笑顔
 木村誠一(神奈川県)
- 43 孫と爺歌が聞こえるいい湯だな
 大久保アヤ子(東京都)
- 44 偏差値は言うまい私の子どもです
 岩崎政弘(岡山県)
- 45 「生きているうちが花よ」と読み聞か
 せ 阿部澄江(宮城県)
- 46 耐えるしかすべは無いとか地震国
 奥那於子(大阪府)
- 47 避難所の床冷え冷えと息ひそめ
 齊藤安弘(神奈川県)
- 48 長尺の靴べらで履く老いの靴
 長谷川庄二郎(千葉県)
- 49 進む過疎変らぬ山の深緑
 山崎一嘉(愛媛県)
- 50 エンブレム五輪旗の元で見栄を切る
 高松秋良(群馬県)
- 51 歩くとき知らぬ間に歌口ずさむ
 松田義登(福岡県)
- 52 デジタルの波で溺れるアナログ派
 目黒豊光(福島県)
- 53 朝夕にロマンを秘める夫婦碗
 三宅得三(新潟県)
- 54 ビックリポン貯金するより金庫買っ
 近藤富夫(東京都)
- 55 開店へ一坪ほどの広告紙
 川瀬幸子(千葉県)
- 56 未来へと過去は扉の外に置く
 高柳閑雲(愛知県)



俳句

- 57 生きる道運びはしない姫女苑
服部八重子(東京都)
- 58 奥入瀬を歩めば清か春夫の忌
天野輝子(東京都)
- 59 石垣の崩るる城や桜散る
大橋恒次(新潟県)
- 60 堅香子の花むらさきに一途かな
磯部力(新潟県)
- 61 おくれ毛にささやいてる春の風
佐々木素風(新潟県)
- 62 ポケットにワンコイン一つ夕桜
小島岳青(新潟県)
- 63 若返る声の弾みて万愚節
有坂馨園(福島県)
- 64 海辺にて新たな暮らし春夕焼
松尾らん(東京都)
- 65 鎮魂の海に黙禱春寒し
井原毬子(東京都)
- 66 パスポート十年更新喜寿の春
中島光江(埼玉県)
- 67 桃咲きて風林火山の幟立つ
鈴木清子(埼玉県)
- 68 かはたれの帳を深め朴の花
川口襄(埼玉県)
- 69 独り身の吾を監視の金魚かな
緑川禎男(埼玉県)
- 70 逆しまに蜜吸ひるたる蜂二匹
杉原明子(静岡県)
- 71 永き日の杖突きながら小谷城
井上静夫(栃木県)
- 72 のつけ井食みて始める花行脚
三津木俊幸(千葉県)
- 73 着ぶくれて汽車の切符を捜しけり
山崎吉晴(群馬県)
- 74 つつましきミニモザの覗く大道芸
片山茂子(埼玉県)
- 75 一人旅黙をみやるはおぼろ月
宇都木安子(東京都)
- 76 春寒の足もところがる星一つ
白戸麻奈(東京都)
- 77 人の世も猫にも恋の傷あまた
高崎登喜子(東京都)
- 78 螢火や短き生いの舞踏会
内河邦久(東京都)
- 79 句碑の文字流麗として花の下
津田吾燈人(高知県)
- 80 つちふるや彼の国よりの金字経
澤雅子(大阪府)
- 81 千両の実一つ残し小鳥さり
西條公雄(埼玉県)
- 82 新社員歯に衣着せず歩をすすめ
福岡悟(東京都)
- 83 春泥を赤い長靴運び行く
清まさじ(静岡県)
- 84 診断の医師のひとこと春隣
宮宅芳子(岡山県)
- 85 もう少し学ぶ事あり山笑う
林 克(福島県)
- 86 菜の花の絨毯果てなき四川省
梶鴻風(北海道)
- 87 積年の想い届ける春風
浦橋渴雪(兵庫県)
- 88 幼子とひいふうみいよ紙風船
近藤薫也(千葉県)
- 89 歩み来し知足の道や花は葉に
大谷茂(埼玉県)
- 90 春ふけて痴呆の進む速さかな
佐野繁(静岡県)
- 91 木の芽風彩画のやうな榛名山
古谷力(東京都)
- 92 祭神は角力の力士花吹雪
津田忠彦(岡山県)
- 93 月を得し祠灯せり花馬酔木
小澤円梨(静岡県)
- 94 若き血の滾る湘南風光る
川嶋法子(東京都)
- 95 南朝の皇子の墓や鬼窟
青木日出男(群馬県)
- 96 浄瑠璃のお鶴泣いても春眠し
吉里ひとみ(東京都)
- 97 よくしみた花見胃袋味噌おでん
阿部幸子(宮城県)
- 98 言ひ聞かす一日一合放哉忌
湯浅芳郎(岡山県)
- 99 春耕や父祖伝来の鋤振るひ
佐野和彦(静岡県)
- 100 故郷の廃屋の庭葱坊主
檜山とり子(東京都)
- 101 物忘れしながら生きて花は葉に
田中昶(鳥取県)
- 102 菜の花や地蔵の肩に触れてみる
小泉和明(茨城県)
- 103 花散るや緋鯉真鯉の口を開け
堀木和子(大阪府)
- 104 をんなどは髪多きもの白鳥めく
鈴木岑夫(千葉県)
- 105 日とさくらデオティマがゐて川べり
安部哲(新潟県)
- 106 幼さやまだまだの初音かな
水落重式(新潟県)
- 107 耕人を鳥のせかする古墳邑
宮崎敏昭(埼玉県)
- 108 宵迫り淡く浮き立花明り
青木涼子(埼玉県)
- 109 真田丸は日本の縮図桜散る
岩村昇(神奈川県)
- 110 春光や自転車乗りを自慢の子
道給一恵(埼玉県)
- 111 母の日や使いそびれし肩のみ券
長峰正晴(千葉県)
- 112 慣れてなお嘔む度入れ菌異物感
花塚三郎(千葉県)
- 113 咲き揃ひ日本列島若葉晴
古川正栄(千葉県)
- 114 卒業を嘔みしめている誕生日
竹本美美子(新潟県)
- 115 新茶汲む煎茶師範の亡き妻や
田野倉訓郎(東京都)
- 116 お百度の母似の影やおぼろ月
一瀬正子(埼玉県)
- 117 かたかこの耳を敬て聞く噂
吉村充治(埼玉県)
- 118 青簾多少のずれば人の道
堅田秀子(東京都)
- 119 一人居の生活いつまで紫木蓮
岡村君枝(茨城県)
- 120 若葉風笑ひ混ぢりのあいこでしよ
小林七重(新潟県)
- 121 青空に放してやりたい鯉のぼり
松前邦広(千葉県)
- 122 しなやかに風に煽られチューリップ
大阿久雅子(埼玉県)
- 123 煮びたしの土筆ひと品箸休め
中田文子(大阪府)
- 124 そぞろ歩きの柳青める西堀を
小林春雪(新潟県)
- 125 平家読む窓辺をよぎる落花かな
鮫島茂利(兵庫県)
- 126 身の丈の風を欲しが鯉鱗
椋本望生(大阪府)
- 127 蒼空に伸びし打球や花の舞
神一男(静岡県)
- 128 遠雪崩夕日けぶりて音やます
上村元義(神奈川県)
- 129 煙草屋の小窓仔猫にゆずりたり
倉田淑子(東京都)
- 130 また巡る母ふせしころ花のころ
井田由利子(宮城県)
- 131 「ころぶな」と送りださるるうららかに
青木ケン子(埼玉県)

- 132 あんなにも待ちたる桜散りいそぐ
重原昇(新潟県)
- 133 白梅や香りと気品親しまれ
五味田幸夫(神奈川県)
- 134 桜下スマホ操る細き指
田野井一夫(栃木県)
- 135 風をきり天をきりゆく夏燕
阿部徳夫(宮城県)
- 136 梅雨晴れ間寡婦に言えぬ話など
宇田川正雄(埼玉県)
- 137 石楠花や色鮮やかに光り降る
井上氣海(広島県)
- 138 登り来て村一望の桃の花
村田吉雄(東京都)
- 139 細胞も気ままの動きものの芽や
黒岩正子(埼玉県)
- 140 人の世も雨に打たれし桜花
杉江典子(岩手県)
- 141 草むらに命の気配春陽かな
杉村美保子(岩手県)
- 142 炊き出しの列に雨風春疾風
金子範子(高知県)
- 143 花の師に木霊かえして山開き
堀田寿美子(北海道)
- 144 青麦や波打つ地割堪えけり
藤井春三(埼玉県)
- 145 桜蕊降る文具店は駅二分
寺内侖(埼玉県)
- 146 春夏秋冬土の匂おう母である
渡部美代子(山形県)
- 147 家中を片付けもせず春に病む
浅海和代(東京都)
- 148 尽きざりしふたりの会話春の宵
仁藤ひろじ(埼玉県)
- 149 おぼろ夜や「優先順位」口癖に
中村康浩(福岡県)
- 150 除染せず山の物喰い内部被曝
菅井文男(新潟県)

- 151 花は葉に抹香足して一人旅
菅原キイチ(宮城県)
- 152 鳩歩く遅日の境内鳩歩く
大矢知順子(神奈川県)
- 153 春の山笥の呼応平和呼び
木村軸(山形県)
- 154 燕飛び我が育ち巢へ一目散
長谷部喜代子(大阪府)
- 155 雨のごと降る桜花昼の月
若月理依子(新潟県)
- 156 桂川、宇治、木津川に春の風
中山日出子(大阪府)
- 157 菜の花や道のどこかが海に出る
金子よし子(新潟県)
- 158 風生れてこの美しき花吹雪
駒場京子(神奈川県)
- 159 貝寄風や陶工達の国はるか
中野勝子(鹿児島県)
- 160 掃くも惜し踏むも惜しけり花の道
鏡たか子(山形県)
- 161 梅干すや朝日燦燦庭に座す
油谷博子(兵庫県)
- 162 誰にでも尾を振る犬や水温む
田中美智子(埼玉県)
- 163 植田早や三日、五日の色となり
中嶋清子(佐賀県)
- 164 花みづき散るも地球のめぐりかな
中澤寿美(神奈川県)
- 165 弥彦山のせて植田の祭祭と
今井勝子(新潟県)
- 166 玉砂利の長き参道花吹雪
鷲谷浅子(茨城県)
- 167 露を摘む嬢に道問ふ札所かな
津布久信雄(東京都)
- 168 あたたかや「回覧」手にし立ち話
浅野信廣(宮城県)
- 169 花の蕊仮面につけて問うてみる
池田岬(千葉県)

- 170 一杯のビールに飲まれあつは
高垣勝代(大阪府)
- 171 君子蘭咲くや胎児の急成長
星一子(神奈川県)
- 172 種札をいっばい立て、我が畑
光成高志(千葉県)
- 173 藤生りに鈴生りの人天仰ぐ
中川義彦(新潟県)
- 174 句作りの一歩百歩や啄木忌
大窪美代子(大阪府)
- 175 鶯の笛川面をわたる花菜風
柚木れい子(埼玉県)
- 176 不揃いの園児の遊戯風光る
日名子春実(群馬県)
- 177 正夢や新幹線は春を乗せ
柴田恵美子(北海道)
- 178 天上の母の便りか風花は
鈴木蝶次(宮城県)
- 179 マネキンはみんな妙齡街薄暑
増本和子(大阪府)
- 180 潮風に浜ひるがおの花揺れる
中村和弘(愛知県)
- 181 競ひ合ひ寄り添ひあひて鯉のほり
邑橋節夫(兵庫県)
- 182 落味噌の味のどこかに母の影
本間ミネ(新潟県)
- 183 鳥も人も声上げ弾む水温む
増田公代(東京都)
- 184 三陸の砂のぬくもり夏兆す
倉沢ひとみ(静岡県)
- 185 夏帽子肩で風切る白の靴
大内泰子(東京都)
- 186 春愁や露天湯ひとり旅の宿
本間進(新潟県)
- 187 ぼうたんに声の弾みし車椅子
本庄準也(埼玉県)
- 188 落日の小家の翳や紅いばら
有田俊一(埼玉県)

- 189 土佐路ゆく新緑まぶしい車窓かな
冲惇子(大阪府)
- 190 バラ香る館ロマンを秘めしかな
石井美智子(埼玉県)
- 191 鯉幟岳麓の風一気飲み
渡邊碧海(静岡県)

フォトイック



(写真提供：伊丹三樹彦さん)
こちらの写真を見て
詠んでいただきました。

- 192 バイオリン抱きしめ春の街に立ち
五十嵐睦博(新潟県)
- 193 もうすぐよモンローになる蝶の舞
橋本世紀男(東京都)
- 194 春の風裾おさえれば髪乱れ
石原岳(群馬県)



- 195 春あらし女神の裾を捲上げて
阿部至(埼玉県)
- 196 趣もあり洋服の裾模様
高原まさし(福井県)
- 197 花嫁の笑顔寿ぐ春の風
三津木俊幸(千葉県)
- 198 一瞬の風に手もでぬ露骨足
鈴木義雄(福島県)
- 199 なりゆきにまかせ薄物風掴む
片山茂子(埼玉県)
- 200 モンローの映画をまずは思い出し
宇都木安子(東京都)
- 201 モンローは我が青春やサンドレス
高崎登喜子(東京都)
- 202 春風にスカート乱れコッチャウワー
清まさじ(静岡県)
- 203 春風に恋の予感の裾模様
松田重信(埼玉県)
- 204 佐保姫の靴音響く石畳
梶鴻風(北海道)
- 205 風薫る芳紀十八歳白き靴
近藤薫也(千葉県)
- 206 着物です蹴出しの紅は和服です
関本 守(新潟県)
- 207 あれやバイヒール挟まる石畳
小山恵美子(大阪府)
- 208 爪先まで春のファッション完璧に
居原田連星(大阪府)
- 209 還暦を過ぎた私を少し見せ
青木日出男(群馬県)
- 210 そう言えばモンローさんを思い出す
山口千鶴子(東京都)
- 211 まだ若い私マリリンモンローよ
檜山とり子(東京都)
- 212 モンローはも少し風をと立止り
石尾曠師朗(東京都)
- 213 おしゃれしてちよつと気取ってハイ
和崎治人(山口県)

- 214 いましがた男を捨ててきた白靴
鈴木岑夫(千葉県)
- 215 白靴の踵の高さ足細く
水落重式(新潟県)
- 216 その昔の青春遠き春の風
村山徳英(埼玉県)
- 217 春なればこれもまた寄席の如なり
安木沢修風(新潟県)
- 218 春風をあそべる乙女すそあそぶ
千代田栄次(東京都)
- 219 風吹けばマリリンモンロー思い出す
松前邦広(千葉県)
- 220 春風やルンバを踊る石畳
大阿久雅子(埼玉県)
- 221 日本流マリリン・モンローしとやかに
佐伯セツ子(香川県)
- 222 新婚の踏みしめ歩く春の風
神一男(静岡県)
- 223 G7被爆地に立つ花は葉に
井田由利子(宮城県)
- 224 石楠花や大輪咲きの麗しい
五味田幸夫(神奈川県)
- 225 悪戯はそこでお止しよ春の風
山田楽山(埼玉県)
- 226 この足にさせてやりたやわが娘
阿部徳夫(宮城県)
- 227 かつこいい超ミニジーンズ似合いそう
阿部澄江(宮城県)
- 228 モンローに勝つたみたいよきれいな足
奥那於子(大阪府)
- 229 ニューファッションいたずらするの春の
風
齊藤安弘(神奈川県)
- 230 ちよつとだけ悪戯をして風が往き
長谷川庄二郎(千葉県)
- 231 素足から美人とわかるハイヒール
岩田信(神奈川県)
- 232 美しき足さつと見せたる春一番
黒岩正子(埼玉県)

- 233 美景脚誰よりも好きマリリンモンロー
北野耕兵(千葉県)
- 234 南風の一寸いたづら四丁目
寺内侖(埼玉県)
- 235 アツ危険モンロースカート期待せり
菅井文男(新潟県)
- 236 あらアタシ恥ずかしくって……どうし
ましよ?
萬濃その子(神奈川県)
- 237 スカートに軽く手を添ゆ青嵐
高杉杜詩花(北海道)
- 238 裁断も縫製もなきニューモード
鏡たか子(山形県)
- 239 モンローか小川ローザかああ懐古
中林恵子(大阪府)
- 240 ルンバかな踵が心配石だたみ
合田浩子(茨城県)
- 241 春風や裾を翻せパーティーへ
油谷博子(兵庫県)
- 242 カメラの目風の悪戯ウフフのフ
三宅得三(新潟県)
- 243 春風のちよつとだけよとたのしそ
高橋登志子(新潟県)
- 244 半世紀前にはあったこの姿
川瀬幸子(千葉県)

- 245 スカートの乱れる裾や春の暮
鷲谷浅子(茨城県)
- 246 永久なれや羅開くマリリンの足
有田裕子(北海道)
- 247 モンローウォークに嫉妬して青嵐
池田 岬(千葉県)
- 248 薫風や笑顔にほつる黒い髪
杉浦俊雄(静岡県)
- 249 風のお遊びマリリンモンローわたし
す
星二子(神奈川県)
- 250 妙齡のフレアースカート立止まる
光成高志(千葉県)
- 251 スカートに遊ぶ春風街を行く
柴田恵美子(北海道)
- 252 地下鉄の風に吹かれし一歩かな
倉沢ひとみ(静岡県)
- 253 颯爽と歩いてみたい箱の中
山中たい子(大阪府)
- 254 青嵐ヒール食い込む石畳
小山羊子(新潟県)



● 俳句・川柳募集!!



(写真提供:伊丹三樹彦さん)

上の写真から、自由にイメージし17文字(俳句か川柳)で表現してください。1枚の写真から想起される世界は無量大です。応募はアンケートハガキ投稿欄にて。ユニークなイック(一句)をお待ちしております!



4月号の 心に残った作品

※より多くの作品を掲載したいと考え、大賞と、自句自解コーナーは年一回とさせていただきます。

◎川柳部門大賞

24 知っていて知らぬふりするイヤリング

山崎一嘉(愛媛県)

・それは知っています。では話は終り。相槌を打つてやる。和の術である。石原岳(群馬県)・ひとの秘密が大変な事件に発展。北野耕兵(千葉県)・イヤリングにそれぞれのドラマが見えます。目黒豊光(福島県)ほか

1 定位置にアハハと笑う妻がいる

木村洋一(新潟県)

・自然と定位置に居て笑ったりする。松尾正一(岩手県)・いつも笑顔の肝っ玉奥さんに拍手です。これからも仲良くおすごし下さい。奥那於子(大阪府)・定位置にいる夫がいる。認知が少し入り、笑ったり怒ったり毎日が面白い。介護はきびしいがアハハの笑いがいい。濱崎祥子(鹿児島県)ほか

6 脱いだ足袋外反母趾のそのまんま

山口千鶴子(東京都)

・外反母趾の姿そのまゝの足袋が映し出され傑作! 木村誠一(神奈川県)・私も足首にサポーターつけないと歩けない為この方の気持が良くわかります。松尾らん(東京都)・私も外反母

趾です。足袋そのまんまがおもしろいです。小山恵美子(大阪府)

17 拝啓も敬具もなく落着かぬ

小石澤英夫(東京都)

・メールもラインも早い気味ない。原崇雄(埼玉県)・掟を守らない自在な方々が増えて困ります。土屋喜雄(山梨県)ほか

◎俳句部門大賞

32 産まぬ自由塚がぬ自由春うらら

早乙女文子(埼玉県)

・在るがままをおおらかに真摯に生きて下さい。村山徳英(埼玉県)・下五の季語、なるほど、なるほど! 仁藤ひろじ(埼玉県)・一生をどう生きるか春の美しい輝き。人生を輝いて生きてほしい。中野勝子(鹿児島県)・正に今は自由ですね。時代も変わりました。田中美智子(埼玉県)ほか

97 囀や土手を駆けゆくランドセル

一瀬正子(埼玉県)

・子供の躍動感が表現されています。古谷力(東京都)・真に春の風景、そして心の若々しい風景が少年時代を呼び起こす名句である。田野井一夫(栃木県)・あたたかい春の日の元気な小学生たちの姿が目に見えて来ます。浅野信廣(宮城県)ほか

125 囲碁を打つ卒寿と傘寿四方の春

山岸伊久雄(東京都)

・勝ち負けはともかく春からお目出たい風景を想像しました。青木涼子(埼玉県)・誰しものがかくありたいと願う光景をうまく句にまとめられました。このように健康で長生きをした

いいものです。吉村充治(埼玉県)・卒寿と傘寿四方の春がいいですね。作者の眼があたたかい。稲葉民雄(千葉県)ほか

33 五線紙をとびだす春の嵐かな

大塚徳子(埼玉県)

・春の嵐の気紛れさを表現している。緑川禎男(埼玉県)・五線紙の中で音符が弾んでいるようでおもしろい。小澤円梨(静岡県)・春はうららかな日ばかりとは限らない。こんな日もある。古川正栄(千葉県)ほか

◎短歌部門大賞

166 昭和史と共に朽ちゆく兵なれば自省の国を目にして死なむ

早坂紘司(北海道)

・同感だが安保法、原発の再稼働と自省どころか逆走している。黒澤正行(福島県)・少年時代志願して昭和二年敗戦の半年間兵役を経験したが「戦争絶対反対」「話し合い平和」と信じている。菅井文男(新潟県)・私も同じ思いです。自省から生れる平和を願う。合田浩子(茨城県)ほか

156 被災地にとぼる街灯与えたり夢と希望と生きる力を

阿部澄江(宮城県)

・果てなき復旧復興への道に希望をもたせる。齊藤安弘(神奈川県)・被災地の方々の現実を思うと実感的ですね。岩崎令子(大阪府)ほか

164 ありがたいの優しい声に癒される卒寿の人のお世話楽しき

関原幸子(東京都)

・われも卒寿。介護の時代にこうあり

たいもの。田中昶(鳥取県)・後期高齢者になつて久しいが、心からの感謝の一言の大切さを今更にしました。田中豊恵(新潟県)・私はお世話になる立場ですが、こんな、ひと言のありがたうに癒される方にお世話されたいです。鷲谷浅子(茨城県)

◎フォトイック大賞

175 ふうらこに乗る人もなし過疎の村

水落重式(新潟県)



・過疎の村は特に子供が少ないので、もしかしたら昼は老人たちの憩いの場かも。高崎登喜子(東京都)・少子化の時代来る写真が物語っています。鏡たか子(山形県)

194 春の海胸に刻みしてんでんこ

井田由利子(宮城県)

・盛田志保子さんのリレーエッセイに「津波でんでんこ」という初めて聞く言葉があり海沿いに住む方の心構えを知った。有島和子(東京都)ほか

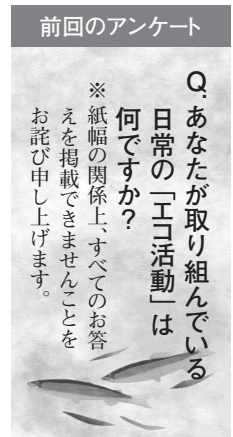
197 ふうらこや海にも空にも行ってみる

有田裕子(北海道)

・私の心境。そのまま行ってみよう! 池田岬(千葉県)・情景がよくわかる句。ブランコを上手に力強く漕いでいる様子が海と空でよく伝わって来ます。山中たい子(大阪府)

※今後もふるってご投稿をお願いいたします!

「投稿作品で心に残ったものは?」の問いに、たくさんのお返事を寄せ頂きありがとうございました!その中で特に多くの評価を集めた作品と、それを選んだ理由の一部をご紹介します。



- ★ゴミの減量**
- ・ゴミ出しの係ですが最近量は量が減っております
木村洋一(新潟県)
 - ・野菜は皮ごと料理につかいます。皮に栄養があるとの話も信じて
岩崎令子(大阪府)
 - ・ゴミを出さぬ様気をつける
青木ケン子(埼玉県)
 - ・ゴミの分別
物品の仕別けを徹底して行いパック類も必ず水洗いをして出す
青木日出男(群馬県)
 - ・プラの分別。よこれているのを洗うのに苦労しました 阿部幸子(宮城県)
 - ・ごみ分別を確実に実行
田中昶(鳥取県)
 - ・町のゴミ分別は真面目にやってプラスチック容器など洗って出します
増本和子(大阪府)
 - ★資源ごみ
牛乳パックを洗って干して鉄できっちり切って開いて束にして出す
松尾らん(東京都)

- ・ペットボトルのキャップをまとめてスーパ一等の回収ボックスへ
吉村充治(埼玉県)
- ・新聞雑誌や紙類は資源物として出している
鈴木義雄(福島県)
- ・紙・ペットボトル・缶等は必ず資源ゴミに出しています
関原幸子(東京都)
- ・地域の小中学校で古紙回収を毎月実施していることから協力しています
神一男(静岡県)
- ・古切手集めと牛乳パック、ペットボトル、ペットボトルのフタを集めています
金子範子(高知県)
- ・資源回収の分別を100%こなしています。例えばペットボトルは蓋と外側のフィルムは別に
仁藤ひろじ(埼玉県)
- ・「雑かみ」を担当。もっぱら回収袋にせつせと貯えています
中村康浩(福岡県)
- ・古新聞を一枚残らず、回収ルートに載せています。古新聞は利用価値の高い便利な資源ですから
萬濃その子(神奈川県)
- ・子供会の資源回収に古新聞・雑誌等を提供しています
浅野信廣(宮城県)
- ・「エコキャップ」集めです。発展途上国の子供達の給食に役立っています
沖惇子(大阪府)

- ★家庭ごみを肥料に**
- ・野菜屑など「自然にかえせ」と言つてコンポストに
緑川禎男(埼玉県)
 - ・生ゴミはコンボ(有機肥料容器)に入れて堆肥を作ります
原崇雄(埼玉県)
 - ・生ゴミは微生物処理して畑へいれる。おいしい野菜ができます
湯浅芳郎(岡山県)
 - ・コーヒー豆を挽いたかすを庭土や鉢植えに混ぜ殺虫殺菌の薬剤に
木村誠一(神奈川県)
 - ・調理の残りもの、庭の落葉を畑に持つていく
久本にい地(岡山県)
 - ・米のとき汁は鉢物、プランター用に
小林七重(新潟県)
 - ★再利用
買物袋など一杯ためておき、ご近所のふれ合いサロンへ差入れを永年つづけております
高須孝(愛知県)
 - ・メモ帖は鉛筆で書いて用件の済み次第消して何回でも使います
高崎登喜子(東京都)
 - ・包装紙等の再利用に心掛けています
久保寿雄(北海道)
 - ・どんな封筒も裏返して使う
黒澤正行(福島県)
 - ・使用済A4用紙を裏返して綴じ俳句手帳とし、現在までに約二五〇冊を再利用している
近藤薫也(千葉県)
 - ・コピー用紙の裏を活用
森恒雄(愛知県)

- ・ティッシュとふきんを使い分ける。ふきんは洗いがらしのタオルを切つて
寒川靖子(香川県)
- ・買い物で入れてくれたビニール袋はずてずにゴミ入れに
檜山とり子(東京都)
- ・捨てた綿の衣類は適当な大きさに切つて、ティッシュの代わりに食器やフライパンの汚れとりに
和崎治人(山口県)
- ・折込広告紙の裏が白紙のものをとっておき、メモ用紙として
岡村君枝(茨城県)
- ・夫のTシャツ、タオルなど古くなったものでガス台回りの油污れなどをふく
有島和子(東京都)
- ・古肌着にハサミを入れ一本のヒモにし新聞、ダンボールをまとめる。布は良くなり女の力にはもってこい
佐伯セツ子(香川県)
- ・「レシート」をメモ用紙に使っています。川柳を気がついた時に書く
長谷川庄二郎(千葉県)
- ・原稿用紙の裏とか広告の裏を用いて作文原稿の控印刷に用いる
高杉杜詩花(北海道)
- ・広告を2〜3枚重ねて四角なゴミ入れを作り、食卓に出しておく
小山羊子(新潟県)



A Q U E S T I O N N A I R E

★マイバッグなど

- ・エコバッグを持ってお買物、何かと咄嗟の場合役に立つ



浦橋克行(兵庫県)

- ・両手に買い物袋は持たずマイバッグはリュックサックに。猫背になりません

大久保アヤ子(東京都)

- ・スーパー・コンビニ等の買い物はマイバッグ持参 齊藤安弘(神奈川県)

- ・不透明ビニール袋をタテに二つまたは四つ折りし、底の方から三角にたたんで常時ポケットに二〜三個入れておく

菅井文男(新潟県)

- ・愛用のバッグをいつも持って出掛けます

松田義登(福岡県)

- ・傘入れ袋を持って行く

星一子(神奈川県)

- ・いつもマイバッグとマイボトルを、詰めかえてできるものは中味だけ購入、包装紙、空き箱は再利用

増田公代(東京都)

- ・スーパーで買物をした時無料の空ダンボールに入れて持ちかえり。後自宅急便の箱に使う 桑原謙一(群馬県)

- ・コンビニでできるだけレジ袋をもらわないようにする 高柳閑雲(愛知県)

- ・運転免許証を返上して電車の利用とひたすら歩く 橋本世紀男(東京都)

- ・週一〜二回卓球に行きますが三階にある会場へエレベータを使わず

- ・宇都木安子(東京都)

- ・全ての乗り物拒否。急がば回る歩きのみ

- ・福岡悟(東京都)

- ・できるだけ歩くこと

- ・近距離なら歩いて用事をすませる

- ・クルマをやめて自転車の活用

- ・アイドリングストップ

- ・1キロ以内の所用は自転車を使う

- ・ハイブリッド車でエコモードで走ること

- ・10km以内は自転車かウォーキング、ジョギング

林 克(福島県)

水落重式(新潟県)

藤沢健二(千葉県)

椋本望生(大阪府)

土屋喜雄(山梨県)

中川義彦(新潟県)

新井賢(埼玉県)

井上静夫(栃木県)

山崎吉晴(群馬県)

早坂絃司(北海道)

梶鴻風(北海道)

川嶋法子(東京都)

堀木和子(大阪府)

村山徳英(埼玉県)

黒岩正子(埼玉県)

★節電

- ・外出時の電気器具のコンセントを外す

- ・窓にはにがりのグリーンカーテン

- ・朝の1時間はカーテンを開き、街路灯の明かりで考える

- ・できるだけ早寝(節電)

- ・お風呂に続けて入る(ガス)、残り湯での洗濯(水道)

- ・カーテンを冬の厚く長いものに取りかえます

- ・部屋・トイレ・階段の電灯をこまめに消すこと。水道の蛇口をしつかり止めること

- ・冬は一枚多く着る。20℃になったら暖房は切ることを子育ての頃から続けています

- ・重ね着による暖房の二度下げ

- ・「水の流しっぱなし、電気をつけっぱなし、朝の寝っぱなし」は御法度

- ・こまめに電気のスイッチをきること

- ・早めの就寝と早起き

- ・冷暖房の温度をひかえめに

- ・部屋の蛍光灯をLEDに変えた

- ・若月理依子(新潟県)

- ・高垣勝代(大阪府)

- ・ドレッシングをかけたサラダを食べた後、器を紙で拭き取ってから洗う

- ・雨樋から60リットルレンタルにいつも雨水を貯めて有効利用(植木草花へ撒いたり、緋メダカの水替えたり、道路の散水にも)

- ・シャワーのヘッドを節水型に取り替えた

- ・冬は湯タンポ。その湯で洗顔。洗濯は風呂の残り湯。ポットの残った湯は冷まして酢とハチミツを入れ飲用

- ・大内泰子(東京都)

- ・湯タンポの代りにペットボトルにお湯を入れて暖める

- ・坂元正憲(東京都)

- ・生ゴミの捨て場所におけるカラスとの共存の追求。カラスにだつて生きる権利あり

- ・松田重信(埼玉県)

- ・俳句||エコ活動と思えますが...

- ・呼吸を控え目にする

- ・庭に食べられるものを植えている。今は三つ葉・山しよみかん・実梅・ぶどう・いちぢく・みょうが

- ・コピー機のインクカートリッジはスパーカジョーシンへ返却処分

- ・一つひとつ大切に使いそして無駄使いはしない

- ・壊れた物、電気器具、自分で修理・修復して使用

- ・買い物する時もつみものも最小限にしてもらいます。相手に失礼のない程度に

- ・ちり紙よりお気に入りの今日のハンカチ

- ・使いきれなかった野菜を干したり冷凍したり水漬(蓮根!!)したりします

- ・大矢知順子(神奈川県)

- ・洗剤のいらぬ浴槽用のスポンジを使っています。食器は頂いたアクリル糸で作ったスポンジ

- ・無駄がないように野菜をつかいきる

- ・エコなのかケチなのか何でも最後まで使いきる

- ・毎年市で行っているエコ検定に応募してエコを考えています

- ・本間進(新潟県)

- ・中野勝子(鹿児島県)

- ・小林恵子(大阪府)

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

- ・

4月号へお寄せいただいたお声の一部をご紹介します！

皆様のご感想、はげまし、親身なアドバイスで情報誌「喜怒哀楽」がつけられていきます。

- ・15年目に突入。とにかくおめでとうございます。「雑誌文化」は、日本の「出版界の誇り」だと思う。
- ・やっぱり菜根譚がいいですね。読みがいもあるし、人の生き方を教えてくれる。気が付きが遅かったけれど良い勉強になります。
- ・錦糸町教室の照屋眞理子先生の講評、はっきりとさっぱりとしていてなるほどと思い楽しく読ませて頂きました。基礎の大切さもわかりました。
- ・笹川薫さん。いい顔していますね。愛が源というのはよくわかります。
- ・フォトイックと俳句両方応募出来るようになって良かったです。写真が素晴らしくて句心が刺激されます。
- ・心に残った作品、共感者が多いようですね。
- ・遠足の思い出といっても人それぞれで、戦時中の方は切ない。
- ・以前新潟と聞くとお米のおいしい所、小千谷ちぢみ、雪国等思い浮かびました。新潟ぶらり、記念館だより等を拝見するたびにあの文人墨客も歴史的有名人、建造物もと何と奥深い都市であったことかと思いを深くしています。
- ・岩田桂さん「土筆の哀しみ」幼きころつくしを摘んだことが思い出され、なつかしく読ませてもらいました。
- ・詠み人のルーエッセイ 盛田さんの三月のこと。かの子の歌もさることながら、後半のくだりは心に沁みました。
- ・表紙の紙風船。一つ飛ばしただけですが、「明るくてなつかしい」です。

※今号へのお声も、ぜひお寄せください。

新潟ぶらり

★新潟市會津八一記念館

會津八一。新潟出身の歌人、書家、東洋美術史学者で、今年に没後六〇年にあたる。これに際し、新潟市會津八一記念館で「會津八一 ふるさとを詠う」と題した企画展が開催されている（七月三日まで）。

当館は二〇一四年に現在の場所（メディアシップ内）に移転。弊誌連載でもおなじみの「にいがた文化の記憶館」の隣になった。受付から展示室入口までの廊下には年譜、人脈図、大判写真が並ぶ。八一は写真映えのする人だと思ふ、一枚一枚に迫力があり、素通りできない。人脈図には正岡子規、宮柊二、坪内逍遙、中田瑞穂、高野素十といった有名人が連なる。

展示室には書画や歌書、屏風、拓本、原稿や友人へ宛てた便りなど様々あり、それぞれに展示テーマである「八一の新潟への想い」がパネルで紹介されている。解説を読み、作品の内容や制作の背景を知ると、八一に対する「気難しそう」というイメージが一面的であったことに気づく。

八一は新潟の、なかでも柳の景観を愛していたようで、俳句や短歌に

多く詠んでいる。友人が新潟の風景を称賛したことをよろこぶ便り（織田一磨宛書簡草稿）での様子は、先ほど写真で見た人物と同じとはちょっと信じられないほどだ。

さらに八一は、新潟大火で店を失った浅川園（茶販売の店主を励ます書を送っていた。「春のくさ暮れてあきのかぜにおどろき 秋のかぜやみてまはるのくさにもなれり」との平家物語の一節をしたためた書には、元気を出して、という八一の気持ちがこめられている。店主はどれほど嬉しかっただろう、八一の生誕百年にあわせて揮毫碑を自宅につくったという（今年二月、古町の浅川園前に移動）。

記念館をあとにするとき、八一をとりまく人物の豊かさは、八一の本当の心の豊かさなのだとわかった。

（菅眞理子）



住／新潟市中央区万代3-1-1 メディアシップ5階
TEL／025-282-7612
時間／10時～18時（月曜休館） 観覧料／一般500円

にいがた
文化の記憶館
便り(8)

越後人のねばり 2

秋岡 啓子

前号では、越後人ならではの「ねばり強さ」を發揮して、長い年月をかけて事業を成し遂げた二人の先人（『北越雪譜』の鈴木牧之と、『大漢和辞典』の諸橋轍次）を紹介しました。今回は独力でコツコツと粘り強く、こ

◆吉田東伍(1864～1918年)

日本初の全国的な地誌として、現在でも版を重ねている『大日本地名辞書』（富山房、1907年初版）を13年かけて一人で編纂しました。地誌とは土地の自然や文化的風土を記したもので、その最も古いものが奈良時代初期（8世紀）に成立した『風土記』です。明治半ばになつても、「日本にはまだ統一した地誌がない」と氣付いた東伍は、本来国家的事業だった『大日本地名辞書』の執筆に取りかかりました。

東伍は現在の新潟県北東部に位置する阿賀野市に生まれました。生家は代々学問を大切にす家柄で、家には郷土の歴史を記録した古文書や絵図面などが多く残る環境でした。東伍は地元の小学校から新潟英語学校に進みますが、「学校はわかりきったことしか教えてくれない」といつて13歳のときに退学。その後は独学で、郷土史の研究などに打ち込みました。

『大日本地名辞書』を作る際も、全国を踏破したわけではなく、図書館で資料を集めて書き上げました。この業績によって東伍は文学博士の学位を授与され、早稲



◀『大日本地名辞書』の著者で、世阿弥発見者でもある吉田東伍



◀全11冊、小口未裁断の仮綴じ本として出版された『大日本地名辞書』初版(阿賀野市立吉田東伍記念博物館蔵)

田大学の教壇に立つことになりましたが、学歴を聞かれると「図書館卒業」と答えました。

もうひとつ東伍の忘れてはならない業績は、それまで伝説上の人物とされてきた世阿弥の实在を明らかにしたことです。財閥・安田家の書庫から『風姿花伝』など世阿弥の著作を見つけ、校注をつけて世に出したのです。これによって初めて世阿弥が能の大成者であることが知られるようになり、現在の能楽研究にまで及んでいます。

◆原久一郎(1890～1971年)

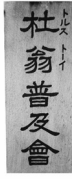
ロシアの文豪・トルストイの小説だけでなく、評論や手紙など全著作を一人で翻訳し『大トルストイ全集』22巻(中央公論社、1940年)を刊行しました。吉田東伍と同じく現在の阿賀野市出身です。

少年時代はわんぱくで喧嘩っ早い性格でしたが、新発田中学に進学し、若い英語教師の影響で文学に目覚めました。トルストイや同じロシアの劇作家チエーホフの作品を教えられ、そこに「人生のための芸術」があることを知ったといいます。早稲田大学へ進み、島村抱月に師事。当時、抱月は劇団「芸術座」を結成し、トルストイ原作『復活』を上演して大きな反響を呼びました。

人間を愛すること、人生を大切にすることを説いたトルストイの思想は「人道主義(ヒューマニズム)」と呼ばれ、全世界の人々に大きな影響を与えました。久一郎が全集翻訳に取りかかっている最中には、インドのガンジーやフランスの作家ロマン・ロランから激励の手紙が届いています。久一郎はトルストイの思想と文学を世に広めるため、生涯をかけて尽力しました。その功績を称え、1967年にソ連最高会議が名誉勲章を、モスクワ大学が名誉博士号を贈りました。



◀中村白葉、米川正夫と並んでロシア文学翻訳御三家と呼ばれた原久一郎



◀原が自宅に掲げた「トルストイ普及会」の表札(阿賀野市立水原中学校市民図書室蔵)

【企画展示情報】
「越後人のねばり
～鈴木牧之・吉田東伍・諸橋轍次・原久一郎～」
●会 期:7月3日(日)まで開催中 ●休館日:月曜(祝日の場合は翌日)
※7月15日(金)からは會津八一没後60年記念
「究極の趣味人～會津八一と川喜田半泥子～」開催。

「食楽句楽のすすめ」の執筆者・岩田さんは、岐阜県生まれ、新潟市在住の元大手企業の企画マン。畑を耕し、俳句の主宰をつとめ「食楽句楽」を実践しつつ人生のセカンドステージを満喫されています。食と俳句とのコラボレーション、当意即妙のエッセイをご賞味ください。

恍惚のさくらんぼ

岩田 桂

さくらんぼは桜桃の字のごとく、バラ科の桜の花が実を結んだものです。「甘果桜桃」が正しき名前前で、一般にはナポレオンと呼ばれています。産地はとくに山形県が有名で、シーズンにもなるとさくらんぼ市があちらこちらに起ちます。

六月の第三日曜日(さくらんぼの日)は、かの太宰治の桜桃忌にあたります。「人間失格」等の名作を思い浮かべます。

さてボクらがさくらんぼに出会うには、まず山形駅前の露天売りを探索するに限ります。そして頬被りしたおばちゃんや鉢巻姿のおっちゃん、しゃがみ込んで交渉します。さくらんぼは鮮度の落ちが早いので、その辺を見極めて試食や値切り交渉するのがコツです。

値切り買ふそれもルビーのさくらんぼ

値段は結構張り、一粒百円前後です。初夏のルビーと言われるほどに、その張りつめた皮肌は輝きに満ちて、愛くるしく、清純、そして無垢の気品すら兼ね備えています。まさに犯さざるべき禁断の木の実の貫禄です。

しかしこの百円は、決して高くはありません。一粒のさくらんぼを手に取り、じっと二十秒ほど見つめると、値切つてはいけなげかな気持ちになり、そう思うようになります。

そして可愛い箱に三十粒入れて、宅配便込みの三千八百円で交渉成立です。交渉成立するとやっとおまけで、三粒ほど試食をさせてくれます。買う前に試食させてくれればいいのに……。

食べ方にも通の間では暗黙のルールがあります。まず薄緑色の柄の先端を指先で持ち、必ず目の前でぶらぶらと揺らします。この揺らしている間に、そ

れを迎え入れる唇の態勢を万全な状態にしなければなりません。

焦つてもいけないし、怠惰でもいけません。

愛おしや茎の先までさくらんぼ

なにせ一粒百円の鮮紅色のルビーです。粗相があつてはなりません。

まずは唇に軽くはさんで、このひんやりとした輝きの皮肌感を確かめます。

その後、果肉を口に含みます。そうしておいて、指先で柄を引つ張ります。

するとブツと茎が抜けて、果肉は舌の上で弄ばれます。次は歯で二、三度プチッと噛み切り種だけを外に出します。あとは安心して大きく、ゆつくり、気品よく味わいます。そしてふわーと息を大きく吐き出します。その顔はまさに恍惚そのものとなります。

ところでサクランボの味つて、こういうものだと表現できるような決め手がありません。

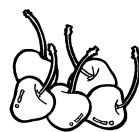
ほのかな甘味と、ほのかな酸味が切なく口中に広がるだけです。一粒食べ終わっても、がんとした納得感がありません。何か片思いの恋みたいなんです。ですから又一粒と、ついつい手が出てしまいます。つまり連食性があります。

さくらんぼを美味しく言ふ者前によ

これつてキャンディーのヒットを作る秘訣なので、と脳裏を過ぎります。そういえば「さくらんぼの詩」という、ヒットキャンディーがありました。あれは売れました。

そして気が付くと、足元の周りは種だらけの、貪欲な、礼儀も知らない自分を発見することになります。ならばと、さくらんぼをより楽しく、実感的に食べようと言う事になります。さくらんぼの種飛ばし競争という手があります。

そこでギネス記録を目指そうとする達人たちを、山形県寒河江市の「全国さくらんぼの種吹き飛ばし大会」に集合させます。マジで実際に行われていま



す。

ルールは簡単です。さくらんぼの種を口から吐き出して、その飛んだ距離を競います。「チェリー、ゴー」と掛け声をかけて飛ばします。三粒の中で一番遠くに飛んだ距離を記録とします。昨年のチャンピオンA君の、連続動作をここに再現します。

スタートラインに位置したA君は

一、まず水を一口飲み、競技の無事を祈ります。
二、次に規定のさくらんぼを口に含み、茎をプチッと引き抜き、果肉を噛み砕いて果肉だけを飲み干します。

三、そして歯茎の間に温存しておいた種を舌の上に引き出します。

四、空気の抵抗を最小限にするために、種の果肉を丹念に削ぎ落とし、種を舌先で巻き込んで、出来るだけ助走路を長くするために、口の奥の方まで持ち込みます。

五、そのあと身体を斜めにし、首から上半身を後ろにそらしながら、息を大きく吸い込んで止め、反動をつけて一挙に舌先の種を、約四十五度の角度で発射します。

六、その記録は二十三メートル(推定)。おお、すごいじゃないか……。

あいにく追い風のために参考記録となったが、「さくらんぼ空を飛ばす」の噂は、瞬く間に全国に広がりました。中には入れ歯を飛ばした参加者も登場します(本当)。

まず父が種を飛ばしてさくらんぼ

そんなこんなで佐藤錦という品種を中心とするさくらんぼは、山形や新潟(聖籠町辺り)の初夏を甘酸っぱく刺激してくれます。

病気見舞い品の御三家(メロン、桜桃、マスカット)と称されるさくらんぼの季節がやって参ります。最近ではさくらんぼ泥棒が横行して、村では自警団を配置して、警戒しています。一粒百円の宝石だから、ピンクパンサーも狙うはずですよ。

オリジナルポストカード「夏」 一新しました!

昨年の秋、冬、そして今年の春と作品を一
新した当社のボタニカルアートのポストカード。
ついに夏バージョンが登場し、春夏秋冬の花々
が咲きそろいました。今回同封したのはフラックス。
日本名はアマ(亜麻)といい、すっきりした
美しいブルーの花が風にそよぎ咲き終わると潔
く散るそうです。暑い夏、涼やかな花、夏らし
い花、ぜひお友だちへのプレゼントに、普段使
いにとご活用ください。

ご希望される方は、同封のチラシの「ご注文
書」にご記入のうえ、**必要金額分の切手を同
封のうえ、封書にてお申込みください。(1組8
枚入り500円)**

※ボタニカルアート…植物の姿を正確で細密に描く、
植物図鑑のための絵画のこと。



パプリカ、アザミ、ツクバネ、日日草、ランタナ、
ユスラウメ、ブラックベリー、フラックスの8種

『爽樹』創刊5周年記念式典 ・祝賀会開催

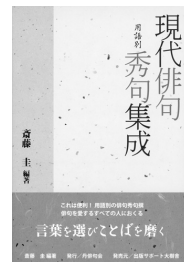
去る5月29日、創刊号より当社でお手伝
いしている俳句誌『爽樹』の5周年記念式
典・祝賀会が、アルカディア市ヶ谷で開催さ
れました。平成22年4月、小澤克己主宰の
急逝により終刊となった「遠嶺」の後を継ぎ、会員の方々が自主
的に立ち上げたのがこの「爽樹俳句会」。主宰を置かず、任期
のある代表制による運営は、これからの俳句結社の新しい有り方
として注目を集めています。現在は川口襄代表のもと、年々会員
も増え、大樹へと育ちつつある「爽樹」。当日も、お一人ひとりが
適材適所で素晴らしい働きをされ、「和やかなあたたかい会
だった」と、参加された方も一様に口にされていました。



現代俳句用語別秀句集成 斎藤圭 編著

「丹」俳句会同人の斎藤圭氏による「現代俳句用語別秀句集
成」は、歳時記とは全く異なるアプローチで明治以降、近現代の
俳人2338人の用語別の秀句、約1700句を収載した1冊。季語
以外の名詞、動詞、形容詞、助動詞、擬態語
などを見出し語とし、それぞれに例句が集めら
れているところが特徴。秀句に接する楽しみと
より豊かな表現を提供してくれる好著です。

【お問い合わせ】 出版サポート 大樹舎
〒950-2015 新潟市西区西小針台3-10-10
TEL・FAX 025-233-5399 info@daikisha.com



スタッフの一言

Q. あなたが取り組んでいる日常の「エコ活動」は何ですか?

※古き良き時代の遊び道具、ビー玉で楽しくパチリ!!

木戸
敦子



エコバッグやリサイクルの
他にしていることとしては、
余計なものは極力買わない、
必要以上に作らない、
作っても残さず食べる(娘
は皿まできれいに…えっ、
犬? 親の顔が見たい!)

古川
久美子



車だけは、所謂「エコカー」
というやつだ。前の車とく
らべて燃費も良い。荒々し
い運転をすると目に見える
ようになったので、なんと
なく謝る日々。

菅
真理子



出かけるときは水筒(最近
はマイボトルというのでし
ょうか)を使います。車を運
転するときは「エコドライ
ブ」を心がけるようになります。
燃費計をチェックする
のが楽しみ。

山田
千秋



牛乳パック、単身赴任から
帰ってきた夫の提案で開い
て洗い、肉や魚を切る時のま
な板にして洗わないで捨
てる。洗剤と労力のエコだそ
う。でも一番正しいのはリサ
イクル紙に出す、ですよ?

木伏
美恵



空き容器(お菓子、プリン
など)はこどもの工作用にと
っておき、芸術的な(?)
作品に生まれ変わる。いら
なくなったこどもの下着や
歯ブラシを窓の棧や玄関
のお掃除に使う。

上村
真智子



紙、缶、ペットボトルは町
内会の資源ゴミ収集の日
にゴミステーションへ出
す。草取りした草は庭の隅
に積み重ねて、堆肥を作り
庭木の周りに敷く。地球に
やさしい自転車通勤!!!

金子
ゆり子



分別ゴミは徹底していま
す。買い物も殆んどエコ
バッグ使用。最近、暑く
なったので保冷バッグも
持って買物に行きます。

石山
由希子



通勤・買い物は車ですが、
アクセルをギュッとやる
といけないので、「ふんわ
りアクセル」を心がけてい
ます。パネルのエコランプ
がつくと一人前の運転手
になった気分です。

吉田
瞳



エコバッグ、水筒、出掛け
るときは子供達も水筒に合
わせておにぎりも持参。エ
アコンを使わないよう自然
クーラーを求め川へ。最近
はテレビも見なくなったな
〜。これってエコ?



山形前森高原で初乗馬体
験! とても楽しくって舞踊っ
てるところ! 4歳10ヵ月



詠み人の『リレーエッセイ』

五月の歌のことば

盛田志保子

「五月蠅い」という字を目にするたびに、五月のどこかうるさいのだろうと思ってしまう。同じ虫なら「八月蟬い」と書いて「うるさい」と読むほうがまだしっくりきます。しかし歴史は変えられません。「五月蠅い」を「うるさい」と読んできた人々の念のようなものを前に、わたし一人のささいな違和感など、それこそ「うるさい」でしょう。とはいえ、なんだかんだいつてわたしはこの「五月蠅い」が好きです。ちよつと「あれっ」と引つかかる、字面を見たときの感覚も含めて。

五月といえば思い出す合唱曲に、『みかんの花はかおり』という歌があります。作詞宮澤章二、作曲湯山昭のコンビでつくられたもので、静岡の自然や人々をうたう合唱組曲「駿河のうた」のなかの一曲です。三十年前、合唱部員だった小学生のころ、わたしはこの歌を強いあこがれをもって聴いていました。県のコンクールで、うまい学校の子供たちが自由曲に選んで歌うような、少し難しい歌です。残念ながらわたしの学校では歌う機会がなかったので、わたしはあの、子供のために大人が書いた美しい合唱曲を、子供時代に歌うことはできませんでした。特に心残りだったというわけでもなかったのですが、最近よく思い出されてきて、口ずさんでいるうちに、ちゃんとした歌詞を知らないことに気が付いて調べてみたのです。

さて、その歌詞のなかに、「花びらは5枚 星のかたち ああ 香る5月の夜の 星が咲かせた花なのか」というところがあります。子供のころわたしは「花びらは5枚」を「花

今回が最後となる盛田さまのエッセイ。頭では忘れていても、感覚で覚えていること。このコーナーもそうであればと思います。次回の執筆者は小樽在住の歌人であり、小説家の方です。

びらはこまい」だと思っていました。「小さく舞う」という意味の言葉なのだろうと。もちろんそんな言葉はありません。そして「ああ香る5月の夜の」を「ああカオルの夏の夜の」だと思っていました。急に人名が入るなんておかしいのに。しかも急に夏……。三部合唱なので言葉が重なったりずれたりして、一人の人間が歌うよりも言葉の端々が鮮明に届かないこともあるのかもしれない。ただ聞こえたままに口ずさんでいました。

今、ちゃんと歌詞を読んで、CDや動画サイトなどで合唱団の歌声を聴くのですが、不思議なことに、どうしてもまだ子供のころに覚えたように聞こえてしまいます。そしてそのように口ずさんでしまいます。わたしはそんな時、傷のついたレコードで聴きなれた曲を、CDで聴いたとき、針が飛ぶはずの場所で飛ばないことに違和感を覚える瞬間を思い出します。へんな話だとは思いますが。目や耳は頭で思うよりも真面目なかもしれません。頭が目や耳を使っているわけではなく、目や耳が先なのです。頑固です。

それはともかく、やっぱり「花びらは5枚」という本来の歌詞は最高に素敵です。なぜ気が付かなかったのでしょうか。わたしは一気に目が覚めたように感激しました。みかんの花びらは5枚、星のかたち。はつきりと、明らかかな、それ以外にない、愛らしい歌のことばだと思います。

編集後記

5月でついに半世紀を生きた。いつまでも楽にならない日常を年上の方にまやくと「楽になることはないよ」と言われ驚いた。今回お話を伺った松田さんも(P4参照)「80歳になりますます忙しくなった」と。あれもこれもとなると削れるのは睡眠時間だけ。でも健康でなければ何もできないという二律背反。皆さんどう時間を使っているのかと不思議になる。6月は父の日がある。帰り道のスーパー、子ども達が描いた似顔絵の前でつい佇んでしまう。ゴマ塩頭に茶髪のパパ。どれも誰かの大切な人。そして大切な人を感じる存在。元気でいることが一番なのかな。しばらく会っていない父に会いにくいこう。(木戸敦子)

●プロフィール

1977年生まれ。2000年『風の庭』で短歌研究社主催「うたう」作品賞を受賞。2003年第一歌集『木曜日』を刊行。加藤治郎に師事。「未来」所属。

2016. 6-7. vol.186 (2016年6月10日発行/隔月発行)
●発行・印刷/株式会社ミュージック・コーポレーション
〒950-0801 新潟市東区津島屋7-29
TEL 025-250-9555 FAX 025-250-9550
0120-819-395
e-mail odp@eseihon.com / HP http://www.eseihon.com
郵便局口座番号 00530-4-81370 口座名 株式会社ミュージック・コーポレーション